

日本労働年鑑 第51集 1981年版
The Labour Year Book of Japan 1981

第一部 労働者状態

VI 農家の状態と農民の生活

1 農家と農家人口

1 農家人口と農家数

農家人口と農家数

一九七九年一月一日現在の農家人口は前年に比べ一・三%減少し二一九六万人となった(第56表)。資料は農林水産省統計情報部「昭和五四年農業調査結果報告書」による。この「農業調査」の値は標本調査であるため五年ごとに実施される「世界農林業センサス」の全数調査の結果と一致しない。農家人口の減少につれ、総人口にたいする農家人口の割合は一九%に低下した。また男女別農家人口の割合は男子四八・六%、女子五一・四%で前年と同じ結果であった。

七九年一月一日現在の農家総数は四七四万戸で、その減少率は前年と同水準の一%減にとどまった。なお、農家一戸当たりの平均世帯員も前年と同じ四・六人であった。

経営耕地規模別農家数

第57表は都府県全農家の経営耕地規模別農家構成の動きをみたものである。一九七九年一月現在の農家構成の特徴はつぎのとおりである。

(1)農家数の減少率は全国のそれと同じく前年比一%の減少を示した。この減少傾向のなかで三ha以上層の農家は前年比二・一%増加して九・六万戸に、二～二・五ha層は〇・六%増加して一六・六万戸になり、この階層の割合はそれぞれ二・一%、三・六%となった。

(2)二・五～三ha層の農家は前年にひきつづき八万戸で量率ともに変化はみられなかった。他方、二ha以下層の農家の減少傾向はいぜん進行した。すなわち、もっとも減少数の多い農家層は〇・五～一ha層で二・四万戸の減、ついで〇・五ha未満層が一・五万戸の減であった。

減少率では〇・五～一ha層、一～一・五ha層が一・七%減、〇・五ha未満層では〇・七%減にとどまった。

(3)階層構成の変化はいずれの規模層においても〇・一ないし〇・二ポイント程度の増減にすぎず、一ha以下層の割合も七〇%でほとんど変化はみられない。なおこれらの農家階層の動向については巻頭のグラビア図表を参照されたい。

最後に、同じ農業調査結果により北海道の経営耕地規模別農家数にかんする特徴をみておこう。農家数は前年に比べ一〇〇〇戸の減で一・三万戸となった。これは、一ha未満層と三～五ha層農家の減少(それぞれ一〇〇〇戸)と二〇ha以上層の増加(一〇〇〇戸)によるものである。この一年間大きな階層変化はみられなかったものの、上層農家の増加と下層農家の脱農化傾向がみられ

ることでは都府県農家の動向と同じである。

日本労働年鑑 第51集 1981年版

発行 1980年11月25日

編著 法政大学大原社会問題研究所

労働旬報社

****年**月**日公開開始

■←前のページ 日本労働年鑑 1981年版(第51集)【目次】次のページ→■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
